

# 官報號外

昭和十九年二月四日

## 第八十四回 衆議院議事速記録第九號

昭和十九年二月三日(木曜日)

午後一時七分開議

議事日程 第七號

昭和十九年二月三日

午後一時開議

第一 訴訟費用等臨時措置法案(政府提出、貴族院送付)

第二 會社等臨時措置法案(政府提出、貴族院送付)

第三 經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第四 朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ爲ノ國防保安法及治安維持法ノ戰時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第五 石炭配給統制法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第六 企業整備資金措置法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第七 朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第八 船舶職員法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第九 簡易生命保險法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十 北支那開發株式會社法及中支那振興株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十六 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十七 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十八 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十九 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十六 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十七 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三十八 第一讀會ノ續(委員長報告)

第八十四回 衆議院議事速記録第九號

昭和十九年二月三日(木曜日)

午後一時七分開議

議事日程 第七號

昭和十九年二月三日

午後一時開議

第一 訴訟費用等臨時措置法案(政府提出、貴族院送付)

第二 會社等臨時措置法案(政府提出、貴族院送付)

第三 經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第四 朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ爲ノ國防保安法及治安維持法ノ戰時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

第五 石炭配給統制法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第六 企業整備資金措置法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第七 朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第八 船舶職員法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第九 簡易生命保險法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十 北支那開發株式會社法及中支那振興株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十六 第一讀會ノ續(委員長報告)

官報號外

昭和十九年二月四日

衆議院議事速記録第九號

議長ノ報告

第十四 砂防ヲ中心トスル治水國策ノ確立並其ノ行政ノ一元化ニ關スル建議案(小泉又次郎君外二十名提出)

飼料確保ニ關スル建議案

三善

信房君

松浦周太郎君

赤松

寅七君

荒川

眞鄉君

伊豆

富人君

池田

秀雄君

泉

國三郎君

内池久五郎君

小笠原八十美君

大島

寅吉君

越智

太兵衛君

大橋

清太郎君

今井

新造君

繁君

江口

木村

正義君

木下

義介君

菊地

養之輔君

北村

又左衛門君

小林

鐵太郎君

田中

源君

高木

義人君

齋藤

憲三君

庄司

一郎君

田中

亮一君

鈴木

重次君

小山

敏捷君

北

村

又

左

衛

門

君

小林

鐵

太

郎

君

田中

源

君

高

木

義

人

君

高

橋

熊

次

郎

君

圖

師

兼

貳

君

利

馬

君

鶴

見

祐

輔

君

永

田

良

吉

君

坂

東

幸

太

郎

君

深

澤

吉

平

君

二

田

是

儀

明治二十五年三月三十日  
第三種郵便物認可

星

一君

青木

精一君

赤松

寅七君

荒川

眞鄉君

伊豆

富人君

池田

秀雄君

泉

國三郎君

内池久五郎君

小笠原八十美君

大島

寅吉君

越智

太兵衛君

大橋

清太郎君

今井

新造君

繁君

江口

木村

正義君

木下

義介君

菊地

養之輔君

北村

又左衛門君

小林

鐵

太

郎

君

田中

源

君

高

木

義

人

君

高

橋

熊

次

郎

君

圖

師

兼

貳

君

利

馬

君

鶴

見

祐

輔

君

永

田

良

吉

君

坂

東

幸

太

郎

君

深

澤

吉

平

堀内 一雄君	本多 市郎君	石田 善佐君	理事 越智太兵衛君
本領信治郎君	前田 善治君	稻葉 寛君	越智太兵衛君 川崎巳之太郎君
正木 清君	松浦 伊平君	小野 秀一君	第二部選出決算委員 小笠原八十美君
松方幸次郎君	松野 鶴平君	木下 義介君	第四部選出決算委員 勝又 春一君
松本治一郎君	宮澤 裕君	小篠雄二郎君	第六部選出請願委員 田中 好君
桃原 茂太君	森 肇君	吉田貞次郎君	第八部選出懲罰委員 山田 順策君
山口左右平君	山田 竹治君	大石 齊治君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
吉田敬太郎君	吉田貞次郎君	石榑 敬一君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
地主ノ海外移住計畫樹立ニ關スル建議案	提出者 松山常次郎君	馬場 元治君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
地主ノ海外移住計畫樹立ニ關スル建議案	提出者 松山常次郎君	堀内 一雄君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
地質調査機關擴充措置ニ關スル建議案	提出者 小泉又次郎君	野口 喜一君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
地質調査機關擴充措置ニ關スル建議案	提出者 小泉又次郎君	古河和一郎君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
大陸鐵道一貫運營ニ關スル建議案	提出者 藤 勝 正憲君	星 一君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
大陸鐵道一貫運營ニ關スル建議案	提出者 藤 勝 正憲君	森部 隆輔君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
(以上一月三十一日提出)		山口忠五郎君	
提出者 小林鐵太郎君	新井 堯爾君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
提出者 中谷 武世君	植松 練磨君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
提出者 最上 政三君	山本 稲吉君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
提出者 多田 滿長君	竹内 俊吉君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
中島彌國次君	深澤豊太郎君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
四王天延孝君	植松 練磨君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
森林ヲ中心トスル國土計畫策定ニ關スル建議案	提出者 小山邦太郎君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
森林ヲ中心トスル國土計畫策定ニ關スル建議案	提出者 松浦周太郎君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
提出者 横川 重次君	馬岡 次郎君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
北村又左衛門君	三宅 正一君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
警察官ノ職務ニ因ル公傷者ニ對シ傷痍記章附與ニ關スル建議案	提出者 吉田 正君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員左ノ如シ
阿子島俊治君	菊池養之輔君	勝 正憲君	去一日議長ニ於ケル特別委員右ノ如シ
ヲ求ムル件)外五件委員			
左ノ如シ			
第八十四回帝國議會運輸通信省所管事務 政府委員被仰付	總局船舶局長 灘山 敏夫	第一回政府ヨリ昭和十七年度國有財產 增減總計算書並會計檢查院ノ檢查報告ヲ 受領セリ	第一回政府ヨリ昭和十七年度國有財產 增減總計算書並會計檢查院ノ檢查報告ヲ 受領セリ
左ノ如シ			
昭和十七年度第一豫備金支出ノ件(承諾 ヲ求ムル件)外五件委員			
委員長			
○議長(岡田忠彦)是ヨリ會議ヲ開キマ ス、御詣り致シマス、決算委員長、戰時特			



ミニ付キ考ヘルモ少キニ過ギルデハナイカトノ質問ニ對シ、是ハ疎開ノ場合ノ事務的費用デアリ、別ニ防空關係ノ費用ハ八年々飛躍的ニ増加シ、其ノ分ハ十八年度追加豫算、十九年度追加豫算ニ於テ相當多額ノ御承認ヲ得テ居ル次第デアツテ、此ノ種ノ費用ハ當局ニ於テモ出來得ル限り費用ヲ惜シマズ出シテ居ル次第デアルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ防空監視費ニ關シ、防空監視哨ハ寧口軍隊ニ編入シテハ如何トノ質問ニ對シマシテ、防空監視哨ハ國民總動員ノ建前ヨリ監視哨令ニ依リ實施シテ居ルノデアルガ、此ノ制度ハ適否ハ考ヘテ居ル、之ニ對スル費用ハ少キニ過ギルトノ向キモアルガ、是ハ從來ノ費用ニ鑑ミ決定シタモノデ、今日ノ物價高カラ見テハ全ク本人ノ辨當代位ニ過ギズ、奉仕的デアル、之ニ對シテハ大日本防空協會ニ於テモ色々衝ニ當ツテ居リ、地方ニ依ツテハ相當激動ヤ同情ノ費用モアルガ、個々町村ニ取ツテハ負擔過重ノ所モアリ、將來ハ國ナリ地方ナリ大キナ單位ニシテ考ヘテ居ル、殊ニ貧弱町村ニ對シテハ中央負擔ヲ考ヘテ居ルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ國民運動補助費タル大政翼賛會補助費、日本發送電株式會社配當補給金補足費等ハ、世論ニ鑑ミ、又後者ノ如キハ設立認メ、翼賛會ニ計上シタ以外ノ費用ヲ生ジタ爲メ第一豫備金ヨリ支出シタガ、政府ハ成ベク豫算計上デヤルヤウ希望シテ居ル旨、ノ答辯ガアリマシタ、次ニ中國地方災害復舊費ニ關聯シテ、今日ノ資材難デアル折柄、

考ヘ方ノ下ニ現狀活用主義ヲ主張モシ、又反省モ求メテ居ルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ科學技術研究ニ關スル諸費目ノ支出ハ少キニ過ギサルヤ、又電波物理研究所臨時費ニ關シ研究ノ結果如何トノ質問ニ對シマシテ、科學研究費目ハ主トシテ南方派遣トシテ研究スル豫備金支出デアリ、又電波ハ急速ニ研究スル必要ガアリ、數個ノ大學、學者等一齊ニ研究ヲ開始シテ居ルガ、詳細ノ發表ハ出來ヌ、但シ近キ將來ニ於テハ案ズルニ及バヌ程度ニ研究ガ出來テ居ル、總テ研究ハ資金、資材ノミデハ出來ズ、其ノ中心ハ研究者其ノ人ニアリ、故ニ若キ後繼者ノ養成モ必要デアリ、目下中心タル學者ニモ大イニ効イテ貰ツテ居ルガ、要スルニ學者、資金、資材ノ三者ガ揃ハナケレバナラヌトノ答辯デアリマシタ、此ノ點ハ大臣マデ御傳ヘヲ願ツテ置キマシタ

最後ニ第一、第二豫備金ノ支出ニ付テノ大藏當局ノ監査ノ根本精神、及ビ其ノ成果ニ對スル責任如何トノ質問ニ對シマシテ、大藏當局ハ各省事務ニ對シテハ監査ハ出來ヌガ、即チ大臣ハ財務ノ總括、大臣トシテ財務ニ付テ監督總括ノ責任ヲ持ツガ、其ノ施策ニ付テハ監督ハセヌ、成ベク内容ヲ詳細ニ審査シ、國費ノ濫費ヲ戒メテ居リ、各省ノ施策ガ政府ノ要求ニ合ツテ居ルカドウカラ頭ニ置イテ審査シテ居ル云々ノ答辯ガアリマシタ、以上ノ外各種ノ角度カラ色々ト熱心ナル質疑應答ガアリマシタガ、是等ハ速記錄ニ譲ルコト致シマス

斯くて昨二日討論ニ入り、川崎巳之太郎委員長谷原公君

第一 訴訟費用等臨時措置法案（政府提出、貴族院送付）

第一 読會ノ續（委員長報告）

國防保安法及治安維持法ノ戰時特別二  
關スル法律案(政府提出、貴族院送付)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
此段及報告候也

昭和十九年一月一日

昭和十九年二月一日

委員長 谷原  
衆議院議長岡田忠彦殿  
〔谷原公君登壇〕

○各原公君 只今上程ニ相成リマシタ訴訟  
費用等臨時措置法案外三件特別委員會ノ經  
過ノ大要竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

議題ト相成リマシタ四法案ニ付キマシテ  
ハ、其ノ趣旨竝ニ提案理由ヲ、過日司法大  
臣及ビ内務大臣カラ詳細御説明ニ相成ツテ  
居リマスカラ私ハ之ヲ省略致シマス、委員

會ハ去ル一月二十九日カラ本月二日マデノ間ニ於キマシテ三回ニ亘ツテ審議ヲ遂ゲタノデアリマスルガ、司法省關係ノ三案ハ之ヲ一括致シマシテ内務省案ト別個ニ議題トシ、先づ政府ノ内容説明ヲ聽キマシテソレカラ質疑ニ入ツタノデアリマス、委員諸君ハ種々ノ見地カラ熱心ニ且ツ詳細検討ヲ行ヒマシタガ、政府モ亦之ニ對シマシテ極メテ懇切丁寧ナル御答辯ガゴザイマシタ、今是等法案ニ付テ行ハレマシタ所ノ質疑應答ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマス  
會社等臨時措置法案ニ付キマシテ一委員

カラ、本法案ニ於テ勅令ニ委任シタ事項ノ  
内容如何ト云フ質疑ガアリマシタガ

(議長退席、副議長著席)

推移ニ依ツテハ多少ノ變更ヲ加ヘル必要ガアルト考ヘルノデ、其ノ餘裕ヲ存スル爲ニ勅令ニ委任スルコトニシタ附言セラレマシタ、次ニ第三條ニ付キマシテ、政府ノ説明デハ、株主ノ員數ヲ五千人位ニ限定スルトノコトデアルガ、其ノ員數ハ如何ナル時期ヲ標準トシテ算定スルノデアルカト云フヤウナ間ニ對シマシテ、政府ハ總會招集ノ爲ノ公告ヲナシタ時ニ五千人バカリアルナラバソレデ宜イト云フ豫定デアルトノ答辯デアリマシタ、ソレカラ第一條等ハ定款ニ定メアル場合ニ限ツテ適用セラレルコトニナツテ居ルガ、左様ナ定メラナスニハ普通ノ定款變更手續ニ依ルノデアルカ、斯ウ云フ間ニ對シマシテ政府ハ、唯一回ノコトデアリ、且ツ株主ノ意思ヲ確ムルヲ相當トルカラ、從來通りノ定款變更ノ手續ニ依ラチケレバ、ナラヌト云フ答辯デアリマシタ、尙ホ第四條ニ付テ或ル委員カラ、政府ノ説明ニ依ルト、營業ノ一部ノ讓渡或ハ營業全部ノ讓受ノ場合デモ、比較的輕微ナモノデアル場合ニハ、總會ノ決議ニ依ラズトモ差支ヘナイト言ハレルガ、是が爲ニ會社ノ目的の變更ヲ生ズルヤウナ場合デモ、左様ナ手續デ宜イノカト云フ質問ガアリマシタガ、之ニ對シマシテ政府ハ、左様ナ場合ノ定款變更ハヤハリ一般ノ定款變更ノ手續ニ依ルベキモノデアル、換言スルト、定款ノ變更ヲ要シナイト場合ニ、營業ノ一部讓渡或ハ全部ノ讓受、左様ナコトガ行ハレル場合ニハ、斯様ナ簡易ナル手續ニ依ラシムル豫定デアルト云フ趣旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ訴訟費用等臨時措置法案ニ關聯シテ或ル委員カラ、裁判所ノ開廷時刻ガ嚴守厲行サレナイ爲ニ、戰力増強ニ忙ガシイ訴訟關係人マ

デガ迷惑ヲ受ケテ居ル現状デアルガ、之ヲ匡正スルニ付テ何トカ考慮ヲシテハドウカト云フヤウナ質問ガアリマシタガ、之ニ對シ政府カラハ、是ハ平素常ニ警報ヲ致シテ居ル點デアルガ、一日ニ數件或ハ數十件宛審理ヲシナケレバナラヌ今日ノ裁判所ノ機構カラ見テ、一面淘ニ已ムヲ得ナイ次第アル、併シ今後ハ一層裁判所及ビ訴訟當事者ノ協力ヲ強調シテ、此ノ種ノ不利不便がナイヤウナコトニ十分努力ヲスルト云フ趣旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案ニ付テ或ル委員カラ、本案成立後ノ檢舉ノ方針、特ニ所謂大物ノ檢舉ヲスルニハ、檢事ニ強制搜查權ヲ附與シナケレバ其ノ目的ガ達セラレナイノハナダイカト云フ質問ニ對シマシテ、司法大臣カラ、此ノ法案ノ運用ニハ勿論萬全ヲ期シ、其ノ事犯ニ對シテハ高位高官ニ在ル者ニ付テモ、檢舉ハ常ニ嚴正公平ニ行フベキコトハ司法ノ性質上當然ノコトデアル、捜査機關ノ強制權ノ問題ハ深イ關心ヲ持ツ云フ越旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ右ノ質問ニ關聯致シマシテ或ル委員カラ、官吏ノ瀆職其ノ他官吏ノ犯罪ノ檢舉ヲ全ウスル爲ニハ、獨立ノ司法警察官ノ制度ヲ設置シナケレバナラスト思フガ、政府ノ所見如何ト云フ問ガアリマシタノニ對シテ、政府カラ官吏ノ瀆職其ノ他ノ犯罪ニ付テハ嚴正ナル檢舉ヲ必要トスルコトハ全ク同感デアルガ、獨立ノ司法警察ノ制度ハ事重大デアツテ、慎重ナル檢討ヲ必要トスル、隨テ今直ニ立案ニ進ムカドウカハ斷言が出來ナイ、

斯ウ云フヤウナ答辯デアリマシタ、次ニ本  
法案ニ關聯致シマシテ、去ル第八十三回帝  
國議會ニ於テ成立致シマシタアノ戰時刑事  
特別法中改正、裁判所構成法戰時特別中改  
正、斯様ナ法令ノ實施ノ狀況、殊ニ二審制  
度トナツタ爲ニ、眞實發見ニ不十分ナ點ガ  
アリハシナサイカ、勾留方長キニ失スル爲ニ、  
事實上一審制度トナツタヤウナ弊ハアリハ  
シナイカト云フヤウナコトニ付テ、詳細ナ  
質問ガアリマシタガ、之ニ對シ政府カラハ  
綿密ナル答辯ガアリマシタ、次ニ或ル委員カ  
ラ本法案ニ更ニ一步ヲ進メテ、不正ノ配給  
ガ著々舉ツテ居ルコト、茲ニ司法當局ニ於  
テ運用上遺憾ナキヲ期シ、種々努力中デア  
ル旨ノ御答辯ガアリマシタ、之ニ對シ  
政府ハ、斯カル處罰規定ヲ設クベシトノ意  
見ハ、既ニ司法省内ノ經濟關係罰則調査委  
員會ノ答申トシテ出テ居ルノデアルガ、規  
定ノ仕方ニ依ツテハ廣範圍ニ失シ、一般ニ  
及ボス響キガ非常ニ大キイノデ、今後之ヲ  
提案スルカドウカニ付テハ今直チニ明答ハ  
出來ナイ、併シナガラ更ニ一層ノ研究ヲ遂  
ゲタイト考ヘテ居ル、斯様ニ答辯ガアリマ  
シタ、次ニ一委員カラ經濟統制法令ハ煩瑣  
ニシテ厖大デアル、之ヲ簡素化スル所ノ必  
要ガアルト思フガ、司法當局ノ方針ハドウ  
カ、又經濟事犯ニ對シ、一般刑法ト違ツタ  
經濟刑法トモ云フヤウナ根本法ヲ制定スル  
必要ハナイカ、或ハ經濟事犯ニ對スル刑罰  
トシテ、從來ノ體刑、金刑ノ外ニ閉門、謹  
慎ト云フヤウナ新タナ制裁ヲ考ヘル必要ハ  
ナイカ、更ニ又經濟犯罪ニ付テハ事前防止  
ニ力ヲ注グベキデアルガ、其ノ對策如何、

斯様ナ質問ガアリマシタノニ對シマシテ、新タル刑罰ヲ制定スベシトノ御意見ニハ深ク敬服スルガ、事重大ナ問題デアルカラ是レ亦篤ト研究調査ヲ進メタイ、尙ホ又經濟犯罪ノ事前防止ニハ大イニ努力ヲ傾注シテ行ク積リデアルガ、其ノ根本ハ違法精神ノ涵養ト云フコトニアルト考ヘテ、司法省トシテハ本年度豫算ニ於テ統制經濟違法懲罰會ノ費用ヲ要求申デアルカラ、是ガ實現スルナラバ各地方ノ有力者ノ協力ヲ得テ、經濟犯罪ノ事前防止ニ努メタイト思ウテ居ル、斯様ナ答辯ガアリマシタ、次ニ一委員カラ司法部ノ機構ノ戰時態勢ヘノ切替ハ一應完了シタ感知アルガ、機構ヨリモノノ問題ハ尙ホ大切デアル、此ノ點ニ關スル司法省ノ用意如何ト云フヤウナ質問ガアリマシタガ、之ニ對シ政府委員カラ種々事例ヲ擧ゲテ、司法部ノ時局認識ニ付テノ決意ノ存スル所ヲ披瀝セラレマシタ

次ニ朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ爲ノ國防保安法及治安維持法ノ戰時特例ニ關スル法律案ニ付キ御報告致シマス、或ル委員カラ此ノ法案ハ内地ニ於テハ他ノ立法手續ニ依リ、本法案ノ成立ト同様ノ結果ヲ既ニ得テ居ルニ拘ラズ、單ニ朝鮮ノミノ爲ニ殊更ニ本案ノ協賛ヲ求ムルノデアルガノ如キ獨立ノ立法手續ヲ執ルコトナク、法ノ解釋運用等ニ依リ、所期ノ目的ヲ達シ得ルノデハナイカ、統治上出來得ル限り内鮮一體ノ措置ガ望マシイガ、政府ハ將來ニ於テモ本案ノ如キ立法手續ヲ維持スル方針デ

アルカト云フノデ、四ツノ對策ヲ提示シテノ質問ガアリマシタガ、之ニ對シ政府ハ對案中ノニツハ反対ノ解釋ヲ取ルガ、他ノ二ツハ考慮ノ餘地ガアル、將來必ズシモ本案ノ立法手續ヲ先例トスルモノデハナイ旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ朝鮮ノ民心ニ關シ國防保安、治安維持ノ見地カラ質問セラレマシタコトニ對シテ、政府ハ國防獻金、金屬回収等ニ現ハレタ半島同胞ノ忠誠心ヲ種種説明セラレマシタガ、中ニ付キ「「ベン」」ヲ捨テ筆ヲ投ジテ、勇躍征途ニ上ル壯舉ヲ聞キ知ツタ朝鮮ノ學生達ハ、當時志願ニ依ルノ外、兵役ニ就ク途ナカリシニ拘ラズ、朝鮮ニ於ケル在學生ノ九割八分、内地在學生ノ九割五分ハ、大東亞戰爭ノ必勝ニ決死ノ御奉公ヲナス爲メ、進ンデ徵兵志願ヲ致シタドノコトデアリマス(拍手)、以上ノ外各案ニ付キ種々熱心且ツ適切ナル質疑應答ヲ交サレマシタガ、其ノ詳細ハ速記録ニ讓ルコトニ致シマス

斯クテ質疑ヲ終了シ、四案ヲ一括シテ討議ニ入りマシタ所、委員佐久間渡君ヨリ原案通り可決スベシトノ意見ノ開陳ガアリ、採決ノ結果、全會一致可決致シマシタ、以上御報告申上ダマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 四案ノ第一讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼ブ者アリ)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ四案ノ第二讀會ヲ開クニ決

第六 企業整備資金措置法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

〔石炭配給統制法中改正法律案〕 報告書  
一石炭配給統制法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿

報告書

一企業整備資金措置法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十九年二月二日

委員長 久山 知之

衆議院議長岡田忠彦殿</

シタ譯デアリマス、此ノ問委員諸君ヨリ要  
國ノ至情ヨリ發スル熱烈眞摯ナル質疑ノ開  
陳方行ハレマシタ、又政府當局ニ於キマシ  
テモ非常ニ懇切丁寧ナル御答辯ヲ得タ譯デ  
アリマス、私ハ其ノ全部ヲ皆様ニ御報告申  
上ガタイ氣持ニ燃ニテ居リマスルガ、時間  
ノ關係上、又祕密會議ノ内容等ニ付キマシ  
テハ、事情ガ之ヲ許シマセヌノデ、是ハ一  
切速記録ニ譲リマシテ、是非皆様ノ御一讀  
ヲ御願ヒ申上ゲタイノデアリマス、唯其ノ  
間ニ於キマシテ、現下國民ノ最モ重大ナル  
關心ヲ持ツテ居リマスル石炭ノ問題、或ハ  
鐵鋼ノ問題ニ付キマシテ、此處ニ國務大臣  
ノ御答辯ヲ御披露申上ゲマシテ、御参考ニ  
供シシタイト思フノデアリマス

一委員ヨリノ、今日ノ石炭事情ハドウナ  
ツテ居ルカ、果シテ政府ノ計畫通り生産ガ  
行ハレテ居ルカドウカト云フ御質問ニ對シ  
マシテ、岸國務大臣ハ、十八年度初頭ニ立  
テ夕物動計畫ノ基礎ヲ成シテ居ル石炭ノ內  
地ニ於ケル產出ハ、上期ニ於テハ殆ド豫定  
計畫數量ヲ生産スルコトガ出來タノデアル  
ガ、其ノ内容ヲ申上ゲルト、四、五、六月  
ハ非常ニ石炭ガ良クテ、七、八月カラハ少  
シ降リ坂ニナツカ結果、上半期全體ヲ通ジ  
テハ計畫通りノ數量ヲ得テ居ル、所ガ下期ノ  
生産目標ニ對シテハ、其ノ後時局ノ要請ニ  
基イテ、年初ニ立テ夕物動計畫ノ供給量ヨ  
リモ之ヲ引上げタ出炭計畫ヲシタノデアル  
然ルニ七八月以降ノ出炭狀況ガ思ハシクナ  
カツタ、此ノ狀況ガ更ニ九月以後ニモ續イ  
テ、十一月ノ初頭ニ於テハ前途頗ル憂慮ス  
ベキ狀態ニ相成ツタノデアルガ、行政警察  
或ハ不足、勞務ノ充足等ヲ講ジタ爲ニ、十二  
月カラハ漸次上昇シテ十二月、一月ダケノ

状況カラ云フト、殆ド計畫ニ近イ数字ガ出ルヤウニナツテ居ル、併シナガラ十月、十一月兩月ニ於ケル相當量ノ計畫ヨリモ足リナイ分ガアルノデ、一月以降ニ於テハ計畫數量ヲ確保スルト共ニ、十、十一兩月ニ於ケル減產トナツテ居ル部分モ回復スルト云フ目標ヲ立テ、今極力官兵ガ力ヲ協セテ邁進シテ居ル次第デアル、大體私共ノ目遷シデハ本年一、二、三、四月ノ增産日標ノ擴大ヲモ含メタ量ヲ、三月末日マヂニハドウシテモ之ヲ碎保シタイト云フ目的ニ向ツテ進ンデ居ル、斯フ云フ御答辯ヲ得タノデアリマス、又鐵鋼ノ現狀ニ對シマシテ一委員ヨリノ熱心ナル質問ガアリマシタ、今日ノ鐵鋼ハ將來ノ戰局ニ非常ナル關係ヲ持ツモノデアル、政府ハモット〜大掛リニ是ノ增産ヲスル必要ヲ感ジテ居ナカニカ、現在果シテ所要量ヲ確保シテ居ルカドウカト云フ御質疑ニ對シマシテ、同ジク岸國務大臣ハ、大東亞戰爭完遂ノ爲ニ鐵鋼ハ多々益、辯ズルノデアルガ、國家全體ノ生産力カラ見テ幾ラデモ造ルト云フ譯ニハ行カナイノデアル、此ノ際鐵ノ絶對ニ増加スルノハ勿論デアルガ、國內ノ比較的重要的重要ナラザル部面ノ消費ヲ抑へ、之ニ依ツテ緊急方面ニ要求ヲ確保スルコトガ絶對ニ必要デアル、政府ハ今シイ資材ヲ汪洋込ムヤウナコトハ絶對ニ避萬難ヲ排シテ是ガ確保ヲ期シテ居ル、而モ一「トン」ノ鐵ノ量ト雖モ爆彈、飛行機、軍艦トシテ直チニ戰力化スルコトニ努力シ、新舊爐ノ全運轉ニ重點ヲ置イテ、一部輕度操業ノモノヲ終勵シテ、十分ナ力ヲ發揮サセルコトガ根本方針デアル、而シテ亜商輸送力ニ依存セズ、且ツ資材ヲ餘リ使ハナイデ、

急速ニ鐵鋼ヲ增産シ得ル方法ヲ併セ考究シタイ、現ニ大陸各地ニ建設サレテ居ル小型熔鑄爐其ノ他ノ方法デ增産ヲ圖ルコトトシタイ、尙ホ國內鐵鑄石資源ノ開發ハ十八年度カラ力ヲ注イデ居ルガ、十九年度ニハ割期的ナ開發ヲ期シテ居ル次第デアル、斯ウ云フ意味ノ御答辯ガアツタノデアリマス、其ノ他凡ニユル角度ニ於キマシテ、微ニ入り細ヲ穿ツタ御質問ガ繼續サレタノデアリマスルガ、前申上ゲマスルヤウニ、此ノ際其ノ一切ヲ省略致シマスルヨコトハ甚ダ私ノ遺憾トスル所デアリマス

斯ク致シマシテ委員會ハ一切ノ質疑ヲ終了シ、右兩案ヲ一括致シマシテ討論ニ入ツタ譯デアリマス、其ノ際川俣清音君ヨリ、此ノ一案ニ對スル贊成意見ノ開陳ガアリマシテ、採決ノ結果滿場一致ヲ以テ原案贊成ノ決議ヲ得タ次第アリマス、右甚ダ簡單デアリマスルガ、委員會ノ御報告ヲ申上ゲマス（拍手）

○副議長（内ヶ崎作三郎君）　兩案ノ第一讀會ヲ閉クニ御異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」と呼ぶ者アリ〕

○副議長（内ヶ崎作三郎君）　御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ閉クニ決シマシタ

○森下國雄君　直チニ兩案ノ第一讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンゴトヲ望ミマス

○副議長（内ヶ崎作三郎君）　森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」と呼ぶ者アリ〕

○副議長（内ヶ崎作三郎君）　御異議ナシト

<p>石炭配給統制法中改正法律案</p> <p>企業整備資金措置法中改正法律案</p> <p>第一讀會(確定議)</p> <p>第二讀會(確定議)</p> <p>○副議長(内ヶ崎作三郎君) 别ニ御發議モ アリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案ト モ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍 手)日程第七乃至第九ハ同一委員ニ付託シ タル議案デアリマスルカラ、一括議題トナ スニ御異議アリマセヌカ</p> <p>〔異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕</p> <p>○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト 認メマス、日程第七、朝鮮私設鐵道補助法 中改正法律案、日程第八、船舶職員法中改 正法律案、日程第九、簡易生命保險法中改 正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續 ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲオメマス—— 委員長今井健彦君</p>
<p>第七 朝鮮私設鐵道補助法中改正法律 案(政府提出、貴族院送付)</p>
<p>第八 船舶職員法中改正法律案(政府 提出、貴族院送付)</p>
<p>第九 簡易生命保險法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)</p>
<p>第一讀會ノ續(委員長報告) (第一讀會ノ續(委員長報告))</p>
<p>報告書</p>



ヲ受ケタ時、敵潜水艦ニ體當リヲ行ハントシタ爲メ、敵ハビツクリシテ逃ゲタト云フコトガアル、斯クノ如キ勇敢ナル行爲ハ日本船員魂ノ發露デアツテ、其ノ例ハ枚舉ニ違ガナイノデアリマス、申スマデモナク海上輸送ハ戰爭遂行上重大ナル要素デアリ、ソニ船員、乗組員ノ重大任務ガアル、大體航海ハ平常デサヘ困難デアルガ、特ニ開戰以來潛水艦、航空機ノ横行スル中ヲ航行スルノハ、平時ニ比ベテ幾十倍ノ困難ガアル、船長以下乗組員ハ不眠不休デ活躍シ、荷役ハ極度ニ早メナケレバナラナイ、船長船員ノ斯カル努力ニ對シテ我々一同ハ感謝シ敬意ヲ表シテ居ル次第デアルガ、一船ノ乗組船員ハ極メテ少數デアツテ、晝夜ヲ別タズ航空機、潛水艦ニ對シテ警戒シナガラ海上輸送ノ重責ヲ遂行シテ居ルノデアリマスルカラ、此ノ機會ニ國民全體ガ船員ノ努力、ノ家族救援ニ十分協力セラレント希望スル(拍手)又陸軍ノ吉積整備局長ハ斯ウ申サレマシタ、大東亞戰下我船舶ハ敵ノ潛水艦ト戰ヒナガラ、晝夜ノ別ナク戰力増強ト國民生活必需物資ノ確保ノ爲ニ第一線ニ活躍シテ居リ、之ニ伴ツテ船員ノ勞苦モ非常ナルモノガアル、能ク底力ヲ發揮シテ其ノ任ニ當ツテ居ル、殊ニ陸軍ノ徵用船ハ北千島カラ南ハ「ビルマ」マデ數千哩ニ瓦ツテ涙グマシキマデノ苦鬪ヲ重ネテ居リマス、最近敵米國ハ補給線遮斷ニ徹底シタ施策ヲ講ジタラシク、潛水艦ニ依ル我船舶ノ損耗ヲ増シテ居リマス、人手ノ少イ船員ノ中カラ對潛水艦見張員ヲ出サネバナラナイ等、船員ノ仕事ハ二重三重ニ増加シテ居ル、船長ノ如キハ航海中食事モ寢ルノモ一切甲

板デヤツテ居ル、船長以下ノ技術ハ實ニ優秀デ、屢々敵潛水艦カラ船ヲ救ツテ居ル、中ニハ敵潛水艦ニ自分ノ船ヲ打突ケテ難ヲ免レタ例モアリマス、斯ウシタ關係カラ敵潛水艦ノ見張ヲ增加シナケレバナラナイ、運航能率ヲ増進スル爲ニ内地ノ荷役ヲ短時間ニ縮メ、歸リニハ努メテ南方物資ヲ少シデモ多ク積ンデ歸ル等ノ爲ニ、船員ノ休養期間ハ皆無ト云ツテ宜イ狀態デアリマス(中略)要スルニ苛烈悽惨ナル決戰下ニ於ケル海上輸送ハ益々危險ガ増大シテ居ルガ、船員諸君ガ船ニ貨物、軍隊ガアル限り、死ヲ賭シテ船ヲ死守スル精神ニ對シ最大ノ敬意ヲ表シテ居ル次第デアリマス、斯ウ述べラレテ居リマス(拍手)洵ニ戰爭ニ際シマシテ護送船ノ乘組員諸君ガ、非常ナ奮闘ヲ續ケラレテ居ルト云フコトハ之ニ依ツテモ明カナノデアリマスガ、然ルニ之ニ對スル所ノ給與ト云フモノガ伴ハナイ、之ニ對シマシテ、一議員カラ詳細ノ質問ガアリマシタ、船長ノ平均年齢ハ大體四十七歳ダサウデアリマス、然ルニ此ノ船長ガ輸送ノ大任ヲ帶ビマシテ、潛航艇ノ横行スル海面ニ突入シ、サウシテ戰死シタ場合ニ此ノ人達ノ受ケル給與ガ幾ラデアルカト云ハバ、二十年保證年金ニ致シマシテ、船長デアツテ月額僅カニ八十圓六十二錢シカ貰ヘナイノデアリマス、軍人ニ比スコトハ如何ト思ヒマスガ、海軍ノ大尉ノ年金ニモ遙カニ及バナイノデアリマス、又甲板長ハ船ニ於キマスル中堅デアリマス、此ノ甲板長ガ戰死致シマシタ時ニモ、僅カスルト同時ニ、一年間ニ加入シ得ル限度八千圓ヲ超ユルコトヲ得ザルモノト致シマサ、仍テ其ノ弊ヲ除ク爲ニ、簡易生命保險ノ被保險者一人ニ付テ加入シ得ル限度ヲ二千圓

案ハ被保險者一人ニ付テ加入シ得ル保險金ノ最高制限額一千圓ヲ二千圓ニ引上ゲル、唯是ダケノ案デアリマス、保險金最高制限額ノ最高制限額一千圓ヲ二千圓ニ引上ゲル、シタ、採決ノ結果、全員三案トモ貴族院遂付案通り、即チ原案通り之ヲ可決スルコトヲ若シ無條件テ千圓以上ニ引上ゲマス時ニハ、トノ鐵道輸送計畫ト云フヤウナコトニ付キモ茲ニ御報告致シマス自由ヲ有サナイノデアリマス

次イデ簡易生命保險法中改正法律案、本案ハ被保險者一人ニ付テ加入シ得ル保險金ノ最高制限額一千圓ヲ二千圓ニ引上ゲル、唯是ダケノ案デアリマス、保險金最高制限額ノ最高制限額一千圓ヲ二千圓ニ引上ゲル、シタ、採決ノ結果、全員三案トモ貴族院遂付案通り、即チ原案通り之ヲ可決スルコトヲ若シ無條件テ千圓以上ニ引上ゲマス時ニハ、トノ鐵道輸送計畫ト云フヤウナコトニ付キモ茲ニ御報告致シマス自由ヲ有サナイノデアリマス

次イデ簡易生命保險法中改正法律案、本案ハ被保險者一人ニ付テ加入シ得ル保險金ノ最高制限額一千圓ヲ二千圓ニ引上ゲル、唯是ダケノ案デアリマス、保險金最高制限額ノ最高制限額一千圓ヲ二千圓ニ引上ゲル、シタ、採決ノ結果、全員三案トモ貴族院遂付案通り、即チ原案通り之ヲ可決スルコトヲ若シ無條件テ千圓以上ニ引上ゲマス時ニハ、トノ鐵道輸送計畫ト云フヤウナコトニ付キモ茲ニ御報告致シマス自由ヲ有サナイノデアリマス

原案、即チ貴族院カラ送付サレマシタ原案ニ入リマシテ、小林委員カラ、現業員ノ待遇改善、半島ト本土トノ連絡、大陸ト半島

通リ委員會ニ於テハ贊成ノ御意見ガアリマ

シタ、採決ノ結果、全員三案トモ貴族院遂

付案通り、即チ原案通り之ヲ可決スルコトヲ若シ無條件テ千圓以上ニ引上ゲマス時ニハ、トノ鐵道輸送計畫ト云フヤウナコトニ付キ

マシテ希望ヲ附シマシテ、三案トモ何レモ

アリマス

ス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 三案ノ第二讀論

會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト

認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決

シタ、民間ノ無審查保險ハ從來通りトスル、シマシタ

斯カル修正デアリマス、之ニ對シマシテ委員諸君カラ種々ナル質疑ガ行ハレマシタ、

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通

先づ今日無集配局ノ中ノ特定局ト直轄局、

リ、可決セラレントラ望ミマス

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議

ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト

認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決

シタ、民間ノ無審查保險ハ從來通りトスル、

ト云フ質問ニ對シマシテ、政府當局ハ、本

年ハ先般郵便料値上其ノ他ニ依ツテ得マシ

人ヲ判任官ニ全部昇格サセル豫定デアルト

雨合羽ニ致シマシテモ、色々ノ物ノ補給ガ

軍手ニ致シマシテモ、軍靴ニ致シマシテモ、

員ノ二千人ダケハ判任官ニ待遇ヲ改メル、

來年度ニ於キマシテハ特室局ノ從業員九千

タル收入ノ中カラ一部ノ金ヲ割イテ、從業

秀デ、屢々敵潛水艦カラ船ヲ救ツテ居ル、中ニハ敵潛水艦ニ自分ノ船ヲ打突ケテ難ヲ免

レタ例モアリマス、斯ウシタ關係カラ敵潛

水艦ノ見張ヲ増加シナケレバナラナイ、運

能率ヲ増進スル爲ニ内地ノ荷役ヲ短時間

ニ縮メ、歸リニハ努メテ南方物資ヲ少シデ

モ多ク積ンデ歸ル等ノ爲ニ、船員ノ休養期

間ハ皆無ト云ツテ宜イ狀態デアリマス(中略)

是等ノ物資ヲ潤澤ニスベキデハナイカト云

フ質問ニ對シマシテ政府ハ、洵ニ御尤モナ

コトデアリマス、是等ノ給與ニ對シテハ、

近キ機會ニ於テ、閣議決定ニ依ツテ純軍需ニ應ジテ配給スルヤウニ致シタイ、斯ウ云

フ答辯デアリマシタ(拍手)其ノ他祕密會ニ

於キマシテハ、沈船其ノ他ニ關シマシテ詳

細ナ質疑應答ガアツタノデアリマシタガ、是

モ茲ニ御報告致シマス自由ヲ有サナイノデアリマス

ス(拍手)洵ニ戰爭ニ際シマシテ護送船

ノ乗組員諸君ガ、非常ナ奮闘ヲ續ケラレテ

居ルト云フコトハ之ニ依ツテモ明カナノデ

アリマスガ、然ルニ之ニ對スル所ノ給與ト云

フモノガ伴ハナイ、之ニ對シマシテ、一議員カラ詳細ノ質問ガアリマシタ、船長ノ平

均年齡ハ大體四十七歲ダサウデアリマス、然ルニ此ノ船長ガ輸送ノ大任ヲ帶ビマシテ、潛

航艇ノ横行スル海面ニ突入シ、サウシテ戰

死シタ場合ニ此ノ人達ノ受ケル給與ガ幾ラ

デアルカト云ハバ、二十年保證年金ニ致シ

マシテ、船長デアツテ月額僅カニ八十圓六

十二錢シカ貰ヘナイノデアリマス、軍人ニ

比スコトハ如何ト思ヒマスガ、海軍ノ大尉

ノ年金ニモ遙カニ及バナイノデアリマス、又

甲板長ハ船ニ於キマスル中堅デアリマス、

此ノ甲板長ガ戰死致シマシタ時ニモ、僅カ

スコトハ如何ト思ヒマスガ、海軍ノ大尉

ノ年金ニモ遙カニ及バナイノデアリマス、又

甲板長ハ船ニ於キマスル中堅デアリマス、

認マヌス、仍テ直チニ三案ノ第一讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

朝鮮私設鐵道補助法中改正法律案

第二讀會(確定議)

船舶職員法中改正法律案

簡易生命保險法中改正法律案

第二讀會(確定議)

副議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モ

アリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、三案ト

モ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

本改正案ノ概要ハ、過日ノ本會議ニ於ケル提案ノ理由ニ於テ明カデアリマス、要スル必要愈、切ナルモノガアリマスノデ、北支那開發株式會社及ビ中支那振興株式會社ノ機能ヲ擴張シテ、政府ノ命令ニ依リ、是等緊要ナル事業ヲ促進スル爲メ必要ナル事項ヲナサシメ、之ニ依ツテ生ズル損失ヲ政府ニ於テ補償スル制度ヲ設ケ、他方今後増大スベキ兩社ノ資金需要ニ應ズル爲メ、兩社ノ社債發行限度ヲ擴張セントスルモノデアリマス、換言スレバ、兩社ノ平和的機能ニ加フルニ戰時ノ要請ニ基ク戰時的機能ヲ附與セントスルモノデアリマス、「大東亞戰爭遂行上緊要ナル事業」此ノ條文ノ追加ニ依リマシテ兩會社ノ使命ハ飛躍的ニ加重セラレ、戰力增强上ニ於ケル兩社ノ地位ハ益々重要トナツテ參ツタノデアリマス

委員會ニ於テハ先づ祕密會ヲ開キ、重要ナル祕密事項ニ付キ青木大東亞大臣ノ詳細ナル説明ヲ聽取致シマシタ後審議ニ入り、三日間ニ亘リ委員各位ノ慎重ナル質疑が續行セラレ、委員ト政府當局トノ間ニ、日華新約ト兩會社ノ關係、在支邦人ノ活動狀況、食糧問題、鐵道、港灣、電氣、小型熔鑄爐、木造船、民族資本ノ活用等、各般ノ問題ニ付キ熱心ナル質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、支那ノ食糧問題ニ對スル政府ノ所見ヲ質シマシタノニ對シ、大東亞大臣ハ、食糧問題解決ノ爲メ支那官民ノ力強キ奮起ノ狀況ヲ述べ、之ニ對シ帝國トシテモ中華民生ノ確保安定ヲ圖ルト共ニ、各種重要戰力資源ノ開發上必要デアリマスノデ、

是ガ解決ニ付テハ各般ノ技術的援助、並ニ外國ヨリノ食糧輸入確保等ニ付キ積極的協力ヲ惜マザル旨ノ答辯ガアリ、又對支新政策ニ伴フ兩會社關係ノ事業ノ調整方針如何

トノ質疑ニ對シマシテハ、中國官民ノ日華

協力ニ對スル熱意ノ昂マリツ、アル現状ニ以テ日華提携ノ趣旨ヲ徹底セシムルコトヲ主眼トシテ、各事業ノ實體ニ即シ、適當ニ移讓或ハ調整ラ行フベキ旨ヲ明カニ致サレタノデアリマス、其ノ他詳細ハ速記錄ニ於テ御承知ヲ御願ヒ致シマス

斯クテ委員會ハ昨日午後一時討論ニ入り、依光好秋君ヨリ贊成ノ意見ガアリ、採決ノ結果滿場一致可決致シマシタ、右御報告申上ガマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 本案ノ第一讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 森下君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——海軍刑法及海軍軍法會議法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長中原謹司君

○議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(内ヶ崎作三郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)

○議長(内ヶ崎作三郎君) 别ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)

茲ニ政府委員ノ間ニ熱切ナル質疑應答ヲ  
ニ付キマシテハ、曩ニ海軍大臣ヨリ詳細ナ  
ル御説明ガアリマシタガ、其ノ要點ヲ重ネ  
テ此處デ御許シヲ得テ説明ヲ致シマスレバ、  
第一ハ海軍軍人ノ名稱申新ニ制定サレマシ  
タ見習尉官ヲ海軍刑法ノ適用下ニ置クコト  
ニナリマシタ、其ノ爲ニ海軍軍法會議法中  
見習尉官ヲ被告人トスル場合ノ軍法會議判  
士ノ區分ニ關スル規定等ヲ整備シタノデア  
リマス、第二點ハ軍法會議ノ職員タル判士ニ  
ハ、戰時事變ニ際シテ必要アルトキ上席判  
士ヲ除クノ外、將校相當官ヲモ之ニ充ツル  
コトヲ得ルト云フ改正デアリマス

シテ將校ヲ以テ上席判士トスル理由ハ何處ニアルノカト云フ質疑デゴザイマシタ、之ニ對シテ政府ハ軍法會議法ニ於テハ統帥中核ヲナス將校ヲ判士トスルノガ原則デアル、又ソレガ最善デアルガ、戰局ノ進展ニ伴ツテ將校ハ第一線ノ配備ニ皆就イテ居ル爲ニ、判士ヲ召集スルコトニ困難ヲ來シテ居ル、其ノ爲ニ次善ノ策デハアルガ、戰時事變ニ際シ必要アルトキ特例トシテ今般ノ改正ヲ行ハントスルモノデアルトノ答辯デアリマス、第二點ノ將校相當官ヲ新クニ判士トスルモ、軍法會議ノ性質上統帥ノ中核ヲナス將校ヲ以テ、依然上席判士タラシムルコトヲ適當ト認メタカラ、上席判士ニハ將校ヲ充テルコトニシタノデアルト云フ政府ノ説明デアリマス、第三ハ本案ニ關聯シマシテ南方占領地域竝ニ皇軍援助ニ依ツテ新獨立國家ニ於ケル一般治安ノ狀況ハドウカト云フ質疑デアリマス、此ノ項目ニ對シテハ陸海軍各政府委員ヨリ是レ亦各地域別ニ瓦リ極メテ詳細ナル御報告ヲ受ケタノデアリマスガ、叶處デハ發表ノ餘裕ガアリマセヌ、結論ダケ御紹介申上ガマスレバ、要スルニ全般的ニハ治安ノ維持ハ極メテ良好デアツテ、殊ニ原住民ノ政治參與ヲ許シタ地域ノ如キハ、自ラ進ンデ防衛義勇軍ヲ起シ、或軍ニ協力ノ實ヲ擧ゲテ居ルト云フコト、又時々敵機ノ爆撃ヲ受クル地區ニ於キマシテハ、其ノ空襲ヲ受ケ爆撃サレ、或ハ後方攬亂ノ目的ヲ持ツ宣傳「ビラ」ヲ撒布セラレルニモ拘ラズ、何等動搖ノ色ナク、我ガ統治ニ對シテ満幅ノ信賴ヲ寄セテ居ル、治安レモノ目的ヲ持ツ宣傳「ビラ」ヲ撒布セラレルニモ拘ラズ、何等動搖ノ色ナク、我ガ統治ニシタ、唯極メテ僅カナル一部分デアリマス

ガ、敵國ノ指導ヲ受ケテ今尙ホ治安上注意  
ヲ要スル所ガナイデハナイガ、是モ皇軍ノ  
援助ト其ノ地區指導者ノ獻身的努力ニ依ツ  
テ漸次改善向上ノ途ニ向ヒツ、アリ、而シ  
テ比較的文化ノ低イ地域ハ、食物ガ缺乏ス  
レバ動トモスレバ不平不満ノ爲ニ騒動等ヲ  
起ス憂ガアルノニ鑑ミマシテ、此ノ地方ニ  
ハ今カラ精神的指導ヲ十分行ヒ、是ト相俟  
ツテ食糧ノ自給自足ノ對策、家庭工業指導、  
輕工業ノ現地移轉等ニ依リ、一定限度ノ生  
活資料ノ確保ト生產ノ増加ニ努メ、治安ノ  
向上確立ニ邁進シテ居ルト云フ答辯ニアリ  
マシタ、尙ホ大東亞戰爭後海軍軍法會議ノ  
取扱ヒタル被告事件ノ數、犯罪ノ種類、或  
ハ南方占領地域ノ司法機關ノ現狀ト軍法  
會議ノ關係、其ノ他占領地域ノ思想檢察問  
題、犯罪豫防ノ方策、行刑者ノ改過遷善策、  
或ハ軍隊ノ禁酒問題等々、総帥ニ關スル軍  
紀軍律保持昂揚ノ見地カラ熱心ナ、有力ナ  
幾多ノ質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス  
ガ、其ノ全貌ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願ヒ  
タイト思ヒマス

○副議長（内ヶ崎作三郎君）　御異議ナシト呼ブ者アリ  
○副議長（内ヶ崎作三郎君）　森下君ノ動議  
ニ御異議アリマセヌカ  
（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）  
海軍刑法及海軍軍法會議法中改正法律  
案　第二讀會（確定議）  
○副議長（内ヶ崎作三郎君）　別ニ御發議モ  
アリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長  
報告通リ可決確定致シマシタ（拍手）　日程  
第十二乃至第十四ノ三案ハ何レモ建議委員  
長ヨリ本會議ニ於テ即決ノ要求ガアリマシ  
タ仍テ是ヨリ順次議題ト致シマス——日程  
第十二、海外同胞援護資金制度設置ニ關ス  
ル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨  
辯明ヲ許シマス——提出者津崎尙武君  
第十二　海外同胞援護資金制度設置ニ  
關スル建議案（前田米藏君外百四名  
提出）  
海外同胞援護資金制度設置ニ關スル建  
議案  
建議  
御稟威ノ下皇軍ノ赫々タル大戰果ニ應ヘ  
雄渾ナル構想ニ依ル大東亞ノ建設ヲ推進  
シ十億民族ノ強靱ナル結束ト無盡藏ナル  
資源ノ開發ヲ促進シ以テ戰力ノ飛躍的增  
強ヲ期スルヘ現下ノ急迫セル戰局ニ鑑ミ  
絶對不可缺ノ要件ナルト共ニ曩ニ大東亞  
會議ニ於テ宣明セラレタル五大原則ヲ實  
現シテ大東亞悠久ノ興隆ヲ期スルハ當ニ  
皇國ニ謀セラレタル一大使命ナリト謂フ

ベシ即チ大東亞ノ建設ハ我ガ肇國ノ精神タル八紘爲宇ノ大理想ヲ顯現シ世界新秩序ヲ確立スベキ一大聖業ナルヲ以テ今ヤル我ガ同胞ノ責務ハ愈其ノ重大性ヲ加フルニ至レリ茲ニ於テカ我ガ海外同胞ハ須ク從來ノ自由主義經濟時代ニ於ケルガ如キ利己的行動ヲ放擲シ儼然タル國家的大方策ノ下滅私奉公一身一家ノ榮達ヲ顧ミズ堅忍持久凡ユル困苦缺乏ヲ克服シ一意專心建設ノ聖業ニ眞摯敢闘セザルベカラズ然ルニ海外同胞敢闘ノ地タルヤ多クハ僻遠不毛剩ヘ家庭上衛生子弟教育上其ノ他各般ノ施設完カラズ殊ニ苛烈ナル戰局ノ現段階ニアリテハ航海中又ハ建設中不幸殉職スル者逐次其ノ多キヲ加ヘ之ガ爲生活ニ困窮スル遺族ノ數亦尠カラザル實情ニアリ此ノ際海外同胞ヲシテ後顧ノ幸ナカラシメ以テ其ノ業務ニ挺身セシムルハ刻下ノ急務ナリト謂フベシ既ニ出征軍人ニハ軍人援護會アリ應徵戰士ニハ徵用援護會アリ海員ニ對シテモ亦日本海員掖濟援護會アルニ拘ラズ挺身以テ皇道ノ發揚ニ活躍スル海外同胞ニ對シテ未ダノ發揚ニ活躍スル海外同胞ニ對シテ未ダ要求ニ即應セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔津崎尙武君登壇〕

○津崎尙武君 只今上程セラレマシタ海外同胞援護資金制度設置ニ關スル建議案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申シタル意ト思ヒマス、本案ニ對スル説明ニ付キマシテハ、先づ案自體ヲ明カニスルコトガ順序ト

思ヒマスカラ、其ノ案ヲ先づ朗讀致シマス

〔副議長退席、議長著席〕

海外同胞援護資金制度設置ニ關スル

御稟感ノ下皇軍ノ赫々タル大戰果ニ應へ

シ十億民族ノ強靱ナル結束ト無盡藏ナル

資源ノ開發ヲ促進シ以テ戰力ノ飛躍的增

雄渾ナル構想ニ依ル大東亞ノ建設ヲ推進

強ヲ期スルハ現下ノ急迫セル戰局ニ鑑ミ

絶對不可缺ノ要件ナルト共ニ曩ニ大東亞會議ニ於テ宣明セラレタル五大原則ヲ實

現シテ大東亞悠久ノ興隆ヲ期スルハ當ニ

英國ニ謀セラレタル一大使命ナリト謂フ

ベシ即チ大東亞ノ建設ハ我ガ肇國ノ精神

タル八紘爲宇ノ大理想ヲ顯現シ世界新秩

序ヲ確立スベキ一大聖業ナルヲ以テ今ヤ

大東亞建設戰士トシテ挺身海外ニ活躍ス

ノ他同胞ノ責務ハ愈其ノ重大性ヲ加フ

僻遠不毛剩ヘ家庭上衛生子弟教育上其

ノ他各般ノ施設完カラズ殊ニ苛烈ナル戰

局ノ現段階ニアリテハ航海中又ハ建設中

不幸殉職スル者逐次其ノ多キヲ加ヘ之ガ

爲生活ニ困窮スル遺族ノ數亦尠カラザル

實情ニアリ此ノ際海外同胞ヲシテ後顧

ノ幸ナカラシメ以テ其ノ業務ニ挺身セシ

ムルハ刻下ノ急務ナリト謂フベシ既ニ出

征軍人ニハ軍人援護會アリ應徵戰士ニハ

徵用援護會アリ海員ニ對シテモ亦日本海

員掖濟援護會アルニ拘ラズ挺身以テ皇道

ノ發揚ニ活躍スル海外同胞ニ對シテ未ダ

齊シク遺憾トスル所ナリ仍テ政府ハ速ニ

雄渾ナル構想ニ依ル大東亞ノ建設ヲ推進

シテ海外同胞援護ノ方途ヲ確立シ以テ刻下ノ

要求ニ即應セラレムコトヲ望ム

右建議ス

建議案ハ以上ノ如クデアリマスガ、是カ

ラシシク其ノ理由ヲ明カニ致シタイト思ヒ

ハ自分ハ身ヲ挺シテ行ク、行ク以上ハ固ヨ

マス、四面環海ノ我ガ帝國ハ、其ノ生存發

達ノ上カラモ、又世界的使命達成ノ上カラ

ミ、海外トノ關係ガ極メテ重大ナコトハ申

スマデモアリマセヌ、殊ニ大東亞戰爭以來

皇軍ノ征ク所遠ク海外各地ニ及ビマシタニ

連レマシテ、大東亞區域ダケデモ在留同胞

三百萬餘ニ達シテ居ル狀況デアリマス、而

シテ其ノ數ハ益増加シ、將來大東亞建設ノ

爲ニハ、國策上相當多數ノ同胞ヲ送り出ス

必要ガアルノデアリマス、是等ノ海外同胞

ハ舊時代ト異ツタ見地カラ、一身一家ノ利害

ヨリモ寧ロ國家ノ要員トシテ海外ニソレバ

健鬪シテ居ル事情デアリマス、即チ軍ニ依

リテナサレマシタ戰爭ト相俟チマシテ、大東

亞建設ノ要員トシテ鬪ツテ居ルト云フノガ

事實デアリマス、而シテ是等ノ要員ハ皆其

ノ生レ故郷ヲ離レテ、國策遂行ノ爲ニ異域

ニ勵クノデアリマスカラ、是等同胞ノ責任

旺盛デアリマス、併シナガラ是等ノ人々ノ有スル他ノ共通ナル氣持ガアリマス、ソレリ覺悟ハ固イノデアルガ、唯萬一ノ場合ニ

覺悟ハ立派ニ出來テ居リマス、時代ヲ認識シ、責任ヲ解シ、挺身報國ノ信念ハ極メテ

シ、日本人トシテ當然ノコトデ、而モ極メテ

ニ日本人トシテ是等ノ海外ニ行ク同胞

ヲシテ後顧ノ憂ヒナク、勇躍其ノ地ニ赴カ

ルト共ニ、不幸ニシテ海外ニ行ク同胞

ノシテ是等ノ同胞ヲ見テヤリ、又病氣其

ノ他ノ事故ノ爲ニ救助ヲ要スル事情ニ至リ

マシタ場合等ニハ、之ヲ援護スル制度ヲ樹

ナ次第デアリマスカラ是等海外ニ行ク同胞

ノシテ是等ノ同胞ガ斃ル、ノミデナク、航海ノ

立スル必要ガアルノデアリマス、今日大東

亞ニ於ケル決戰ノ間ニ、建設ニ從事スル相

當多クノ同胞ガ斃ル、ノミデナク、航海ノ

途中ニ於テ殉職スル者サヘアルコトハ諸君

御承知ノ通リデアリマス、此ノ事情ニ徵シ

マシテモ、海外同胞援護制度實現ノ急務ナ

ルコトガ明瞭デアルト思ヒマス

以上述べマシタコトガ、主トシテ海外同

胞援護資金制度ヲ設置シタ伊要件デアリマ

著ヲ捨テ、國策上海外ニ身命ヲ捧ゲテ働く

氣療養者ノ補助、養老者、孤兒ノ救濟ナド、

厚生方面等ニモナスベキコトガ多クアリ、

ノ關係ニ於テ、幾多ノ施設ヲ要ズルコトガアルノデアリマス、併シナガラ是等ノ諸施設ハ之ヲ後日ニ譲ルコトニ致シマシテモ、差當リ戰爭ト建設ニ伴フ事項ノ措置ニ付キマシテハ、速カニ實現スルノ必要ヲ痛感致スノデアリマス、既ニ軍人、應徵士、海員等ニ對シマシテハ、ソレドモ、援護ノ施設ガアリマスケレドモ、海外同胞ニ對シテハ未ダ何等ノ施設ガアリマセヌカラ、特ニ此ノ際援護ノ制度ヲ設ケルコトヲ要望スルノガ、本建議案提出ノ理由デアリマス。尙ホ此ノ制度ノ設置並ニ運營等ニ付キマシテハ、我々ノ研究シ、考慮シテ居ルコトガアリマスケレドモ、ソレハ政府側ノ御研究ト相俟チ後日具體的ニ進メルコトニ致シマシテ、今日ハ其ノ設置ノ一日モ早カラントコトヲ希望スルコトニ止スマシテ、全院一致ノ御賛成ヲ希望致ス次第デゴザイマス(拍手)○議長(岡田忠彦君) 採決致シマス、本案ニ御異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」と呼ブ者アリ〕○議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ可決セラレマシタ(拍手)大東亞大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス——青木大東亞大臣  
〔國務大臣青木一男君登壇〕○國務大臣(青木一男君) 只今本院ニ於テ可決相成リマシタ海外同胞援護資金制度設置ニ關スル建議案ニ付キマシテ、此ノ際政府ノ所見ヲ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス  
大東亞ノ結集ヲ鞏固ナラシムルト共ニ、大東亞圈内ニ於ケル各種ノ建設ヲ促進シ、我が戦力ノ飛躍的増強ヲ圖ルコトハ、現戦局下最モ急務トスル所デアリマス、此

ノ間ニ於キマシテ東亜建設ノ第一線ニ身活躍スル海外同胞ノ任務ハ往年ノソレト趣キフ異ニシ國家的使命ノ遂行ヲ要請セラ胞ガ此ノ責務ヲ遺憾ナク果シ得ル爲ニハ、日當幾多ノ困苦缺乏ニ耐フベキコトハ固ヨリ、常ニ國策實現ノ尖兵タルノ自覺ノ下ニ、一身一家ヲ顧ミズ、其ノ使命達成ニ邁進スルノ覺悟ガナケレバナリマセヌ、而シテ是ト同時ニ國家及ビ國民ニ於キマシテモ、是等同胞ノ決意ニ對シテハ、深キ理解ト同情トヲ持チ、彼等ヲシテ後顧ノ憂ヒナク任務遂行ニ專念セシムルヤウ努メネバナラスト存ジマス、殊ニ戰局苛烈ヲ加フルニ從ヒマシテ、建設途上、不幸遭難、殉職スル者モ漸次増加セントスルノ趨勢ニアリマスル折柄、速カニ是等同胞ニ對スル援護ノ方途ヲ確立スペシトノ建議ニ對シマシテハ、政府モ其ノ趣旨ニ於テ同感ニ存ズル所デアリマス(拍手)仍テ政府ニ於キマシテモ今後關係方面ト十分協議ノ上、實情ニ即シタル適切妥當ノ方途ヲ講ジ得ルヤウ研究ヲ進ムル考ヘデゴザイマス

水産物ノ増產計畫ヲ確立シ勞務、漁船、燃料、其ノ他漁業用資材ノ供給確保ニ必要ナル對策ヲ樹テ其ノ實行ヲ期セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔眞藤慎太郎君登壇〕

○眞藤慎太郎君 只今議題トナリマンシタ水產物増產確保ニ關スル建議案提案ノ趣旨辯明ヲ致シタイト存ジマス、先づ其ノ案文ヲ朗讀致シマス

水產物增產確保ニ關スル建議

榮養給源ノ飛躍的增强ハ現下ノ國民食糧需給上寔ニ喫緊ノ要務タリ仍テ政府ハ速ニ水產物ノ增產計畫ヲ確立シ勞務、漁船、燃料、其ノ他漁業用資材ノ供給確保ニ必要ナル對策ヲ樹テ其ノ實行ヲ期セラレムコトヲ望ム

右建議ス

主要食糧ノ增產確保ニ關シテハ、東條首相竝ニ山崎農商相ノ力強キ言明ニ依リマシテ、一億國民ニ深キ信賴ト自信トヲ與ヘタコトハ洵ニ慶ビニ堪ヘナイ所デアリマス、併シナガラ此ノ主要食糧自給體制ノ確立ト共ニ、更ニ國民體位ノ保持ニ絕對ニ缺クコトノ出來ナイ動物性蛋白質ノ主要給源デアル水產物ノ增產確保ヲ期スルニアラザレバ、食糧對策ハ決シテ完璧トハ申サレナイト存ズルノデアリマス（拍手）國力ノ根幹デアル國民體位ノ保持上、魚介類ニ依ル蛋白質ノ供給ガ、少クトモ一日二十「グラム」以上ヲ要スルコトハ、斯道ノ權威者ガ齊シク提唱シテ居ル所デアリマステ、斯クセザレバ國民體位ノ維持モ、健民強兵ノ實モ擧ゲルコトハ不可能デアリマス（拍手）然ルニ現在ニ於テハ内地人口一人一

日當リノ魚肉蛋白質ノ攝取量ハ僅カニ數「グラム」程度ト推定セラレ、必要量ノ一部ヲ充タスニ過ギナイ状態デアリマス、主要食糧ノ配給ヲ規制シテ居ル今日、水產食糧ニ期待スル所ハ甚ダ多大ナルニモ拘ラズ、斯カル實情ニアルコトハ洵ニ憂慮ニ堪ヘザル所デアリマス、政府ハ前通常議會ニ於テ、昭和十八年度ノ生産目標ヲ九億貫トンテ、其ノ確保ヲ期スル所存デアルト言明セラレタノデアルガ、是ハ前申シマシタ動物性蛋白質ノ所要量約十一億九千萬貫ヨリ見マスレバ、甚ダ過少ノ生産目標デアルト思ハレルノデアリマス、然ルニ此ノ目標量スラ現在ノ如キ勞働力、漁航、資材ノ状態ニ於テハ、遺憾ナガラ確保スルコトガ困難デハナイカト思ハレルノデアリマス、是ハ畢竟戦時食糧政策ノ一環トシテ、漁業ニ關スル生産目標ガ決定シテ居ラナイ爲メデアリマシテ、勞務資材ノ確保、漁船運營竝ニ建造等ニ關シ、積極的對策ガ確立セラレズ、延イテハ生産計畫ノ樹立、實施ヲ困難ナラシメルノデアリマス、斯クノ如キ状態ニテハ、官民ノ異常ナル熱意ヲ以テシマシテモ、漁業ノ増産ハ單ナル掛聲ニノミ終ルノ虞ナキヲ保シ難イト存ズルノデアリマス(拍手)漁業生産ニ必要ナル勞務ノ最小限度ヲ保有セシムルコトハ、獨リ漁業ノ増産確保ノ爲ノミデハナク、海洋國家タル我ガ國民族ノ基盤タル漁村ノ確立上ヨリ見テモ、極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノガアリマス、然ルニ漁業勞務ノ確保ニ付テハ、農業ニ於ケル戰時農業要員ノ確保ノ如キ、法令ニ依ル根本的措置ガ講ゼラレテ居ナイバカリデナク、漁業專業者ノ徵用ニ當リテモ、何等特別ノ考慮ガ拂ハレテ居ラナイコ

トハ、私共ノ海ニ遺憾トスル所デアリマス  
(拍手)漁業勞務ハ農業勞務ニ比シマシテ、特ニ専門的技術ト、精強ナル勞働力ト、敢爲ナル冒險的氣性トヲ必要トスル部面が多々、婦女子ヤ學徒勤勞ニ補充的勞務ノ給源ヲ求ムルコトハ全ク無理ト言ハネバナリマス又、殊ニ漁船ノ船長、機關士ノ徵用ガ漁船ノ出漁ヲ不能ナラシメ、又一般漁業者ニ付テモ漁期中ノ徵用ガ其ノ操業ヲ不能ナラシメツ、アル事例ハ決シテ少クナインデアリマス、農業者ト共ニ食糧ノ増産ニ挺身シ、凡ニユル困難ト鬪ヒ、國家ノ要請ニ應ヘツ、アル漁業者ニ對シテ、斯クノ如ク取扱上農業者ト著シキ差別ガ認メラレルコトハ、彼等ノ增産志氣ニ非常ノ影響ヲ與ヘ、漁村青年ノ離村或ハ轉業ヲ招來スルノ虞ナシトシ年ノ離村ハ急務中ノ急務デアツテ、漁業生産計畫ノ遂行上必要ナル勞務ノ最小限度ハ、水產業系統團體竝ニ海洋漁業統制機關ニ命ジテ之ヲ確保セシムルノ方途ヲ講ズルト共ニ、其ノ要員ハ農業其ノ他ノ重要產業ト同様ニ、生産計畫ニ即應シテ適正ナル配置ヲナサシメ、以テ水產食糧ノ增産ニ萬遺憾ナカラシムルヤウ、速カニ所要ノ法令ヲ制定スベキデアルト信ズルノデアリマス(拍手)  
一漁船ニ關シテハ政府ハ曩ニ是ガ計畫的建造ノ必要ヲ認メラレ、木造船ノ計畫造船ノ一部トシテ實施セラレツ、アルノデアリマスルガ、其ノ成果ハ決シテ満足トハ申サレナイノミナラズ、御承知ノ如ク優秀ノ漁船ハ徵用等ニ依ツテ著シキ減少シテ居ル今日、コトハ勿論、小型漁船ノ建造ニ關シテモ、

尙ホ一層ノ指道鞭撻ヲ加ヘラレニコトヲ要望致ス次第デゴザイマス(拍手)又計畫造船ノ促進ニ茲行シテ最モ重要ナルコトハ、漁船並ニ其ノ機關ノ修理ニ關スル諸施設ノ整備デアリマシテ、沿岸ニ於ケル木造船工場ノ新設擴張ニ影響ヲ受ケ、修理職工ヤ船大工ガ拂底シ、船體、機關ノ修理ニハ全國的ニ其ノ困難ヲ懼ヘツ、アルノデアリマス、漁業生産ニ於ケル漁船ノ重要性ハ贅言ヲ要シマセヌ、然ルニ此ノ漁船ノ建造、修理施設ガ斯カル現狀ニ置カレテ居ルコトハ、洵ニ寒心ニ堪ヘザル所デアツテ、政府ハ宜シク所要ノ豫算ヲ計上シ、速カニ是ガ施設ノ整備擴充ヲ講ゼラレンコトヲ望ムモノデアリマス(拍手)

次ニ燃料其ノ他漁業用資材ノ供給確保ニ付テデアリマスルガ、水產團體ノ調査ニ依リマスルト、鱈揚縄網、一般定置網、機船底曳網等、主要ナル漁業ノ生産ハ沿岸漁獲ノ約八〇%ヲ占ムルモノニアツテ、假ニ九億貫ノ生産目標ヲ達成セントスル場合ニ於テハ、此ノ漁業ニ依リ七億九千萬貫ヲ確保シテケレバナラヌノデアリマスルガ、之ニ要スル資材及び労力ハ、戰前ニ比シ資材ニ於テ二割、労力ニ於テ五割ノ供給スラモ之ヲ確保スル能ハザル現狀デアリマス(拍手)スルコトノ如キ狀態デハ漁業生産ノ増強ヲ期スナク、此ノ都面ニ對シテモ相當ノ資材ヲ要ス、而シテ海洋漁業ニ於テハ今日戰局ノ甚大ナル影響ヲ受ケ、其ノ生産著シク減退シテ居ルガ、是トテ決シテ輕視スベキモノデルコトハ到底不可能ト申サネバナリマセス

的ニ集中幹員セラル、ニ於テハ、漁業ノ増産ハ決シテ困難事デハナイト確信致スモノデアリマス（拍手）政府ハ食糧事情ノ緊迫セル手）我ガ國ハ四面廣大ナル好漁場ヲ有シテ居ルノミナラズ、世界ニ冠絶スル優秀ナル漁民大衆ガアリマス、之ヲ國策ノ線ニ動員シ、之ニ漁船資材ヲ與フレバ、之ニ依ツテ獲ル資源ハ直チニ生鮮豊富ナル榮養食糧トノ連絡ヲ一層緊密化セラレ、即時増産計畫ナツテ戰力化サレルコトハ最早駭々要サナイノデアリマス（拍手）仍テ政府ハ水產物増産ノ隣路ニ深ク思ヒヲ致サレ、關係官廳ヲ確立シ、勞務、漁船、燃料其ノ他漁業用資材ノ供給確保ニ必要ナル對策ヲ立て、其ノ實行ニ當ツテハ、生產團體ニ生產ノ責任ヲ負荷セシメ、之ヲ誘掖シ、以テ激刺タル創意ト工夫トヲ講ゼシメ、其ノ強力ナル組織力ト實踐力トニ依リ、増産計畫ノ達成ニ邁進致スベキデアルト存ジマシテ、本建議案ノ提出致シタ次第アリマス、何卒滿場ノ諸君ノ御賛成ヲ御願ヒ致シタイト思ヒマス（拍手）

## 第十四 砂防ヲ中心トスル治水利水國

沙方ヲ中心ニスレ治長利水園業ノ確立並其ノ行政ノ一元化ニ關スル建議案（小泉又次郎君外二十名提出）

石川忠一 沢井和也 國策ノ研究  
其ノ行政ノ一元化ニ關スル建議案  
砂筋ヲ中心トスル治水利水國策ノ確

立茲其ノ行政ノ一元化ニ關スル建議  
治水ノ完璧ハ先ツ砂防工事ノ完遂ニ俟タ  
ザルベカラズ然ルニ從來ノ治水事業ハ本  
事業ノ遂行ニ缺クル所極メテ大ナリ仍テ  
政府ハ將來砂防事業ニ重點ヲ置キ速ニ之  
ガ貫徹ヲ計ルノ要アリ尙内務省所管ノ治  
水事業ト農商省所管ノ治水利水ニ關スル  
凡ニル事業ヲ一省ニ統合シ以テ治水利水  
萬全ノ機能ヲ發揮セラレムコトヲ望ム

右建議ス

紫安新九郎君登壇

○紫安新九郎君 私ハ只今上程セラレマシ

タル砂防ヲ中心トスル治水利水國策ノ確立  
茲其ノ行政ノ一元化ニ關スル建議案ニ付キ

提案ノ理由ヲ申上ゲントスルモノデアリマス

私ハ兵庫縣但馬ヲ貫流致シテ居リマスル

圓山川沿岸ノ農村ヲ郷里トシテ居ル者デアリマス、又悲慘ナル水害ノ體驗ヲ持ツテ居ル者デアリマス、隨テ砂防、治水、利水ニ關シテハ平素聊カ關心ヲ持ツテ居ル者デアリマス、昨十八年ノ水害ハ一道二十九縣ニ及ビ、最モ悲慘ヲ極メタノハ島根縣デアリマス、何故ニ斯クモ水害ガ起ルノデアリマセウカ、砂防ノ權威者ノ言フ所ニ依リマスレバ、是ハ治水政策ヲ誤ツタ結果デアルノデアリマス、現在ノ誤レル治水政策ヲ以テスレバ、當然起ルモノガ起ツタノデ、何等不思議トスルニ當ラナイ、ソレデアリマスカラシテ現狀ノ儘ニ放任センニハ、今後益々大災害ヲ誘致スルノ危険ガ豫想セラル、ノデアリマス、何故ニ治水政策ヲ誤ツタカト言ヘバ、河川改修ヲナスニ當リテ、單ニ河川ノ流域面積ト降雨ノ分量トヲ計算ノ基礎トナシ、之ニ河床ノ狀態トカ緩急ノ程度ヲ考ヘ、幾分ノ安全率ヲ加ヘルニ過ぎナイカラデアリマス、降雨ニ依ル流水ノ分量ノ外ニ流出ス土砂ヲ算定シ、兩者ヲ合併シテ正確ナル洪水ノ分量ヲ決定シタモノガナイカラデアリマス

來ナイカラ、流出土砂ノ分量ヲ計算スルコトハ極メテ困難デハアリマスルガ、洪水ノ分量ハ單り降雨ノ分量ニ依ラズ、流出スル土砂ノ分量ノ爲ニ著シク左右セラレルト云フコトデアリマス、我が國ノ河川ハ地形ノ上ニ於テ大陸ノ洋々タル大河ニ比シテ概シテ急流ナル河川ニ屬スルガ故ニ、一層流出スル土砂ノ分量ヲ重視シナケレバナラヌノデアリマス、昨年無數ノ山ノ崩壊ヲ來シ、多クノ同胞ヲ失ヒマシタル島根縣ノ慘状ヲ者ヘマスルト、島根縣ハ從來甚ダシキ災害モナク、出雲大社ノ所在地ダケニ、何トナク鬱蒼タル森林國ノヤウナ觀ヲ呈シテ居タノデアルガ、一朝ニシテ非常ナル慘状ヲ呈シタノハ、水源地方ニ於ケル砂防工事ノ行單リ昨年ノ島根縣ノ水害ニ限ラズ、昭和四年以來群馬縣、兵庫縣六甲山地方等ノ各地方ニ頻出近クハ兵庫縣六甲山地方等ノ各地方ニ頻出シタ大水害ハ何レモ其ノ揆ヲ一ニスルモノデアリマス

ノ吉屋川ハ、其ニ昭和十年ノ地域ヲ限ツタ豪雨ノ爲ニ崩壊ヲ續出し、多クノ耕地ト宅地トヲ流シ、汽車、電車ヲ不通ナラシメ、是ガ復舊ニ際シテハ、單ニ兩河川ニ限ラズ六甲山一帶ノ危險性ヲ慮リマシテ、相當ノ砂防工事費ガ要求セラレタノデアルガ、財政ノ都合上仁川及ビ吉屋川ノ一部ニ對シテノミガ承認セラレ、仁川ト吉屋川ニ多數ノ堰堤ガ築カレタ、隨テ昭和十三年ノ六甲山脈一帶ノ大水害デハ、仁川ハ殆ド水害ヲ免レ、吉屋川ハ兩方ニ隣接シテ居ル夙川、住吉川ノ慘害ニ比較シテ輕小ニ止マツタ、此ノ事實ニ微スルニ、若シ曩ニ要求セラレタル全額ノ豫算ガ承認セラレ、六甲山脈一帶ノ河川ノ要所々々ニ豫メ砂防堰堤ヲ築キ、崩壊防止ニ備フレバ、一朝ニシテ多數ノ人命ヲ失フコトナク、神戸市ノ大水害ヲ防止輕減シ得タコト信ズルノデアリマス、然ラバ適正ナル治水政策ハ何デアルカト云フト、是モ斯道ノ横威者ノ言フ所ニ依リマスレバ、何川ノ洪水ノ分量ハ流域ノ面積ト最大ノ降雨トノ分量カラ算出決定シ、ソレニ基イテ河川改修ヲ施行スルコトニ依ツテ沿岸一帯ノ地方ハ永久ニ水ノ禍ヒカラ免レ、改修ノ利福八年ト共ニ増進シ得ルモノデアリマス、此ノ兩工事ノ完成ニ依ツテ初メテ治水ス、元來河川改修ニ當リテハ、砂防工事ト河川工事トニ區分シ、兩者何レモ輕重ナク不可分一體ノ工事デナケレバナラヌノデアリマス、此ノ兩工事ノ完成ニ依ツテ次メテ治水ノ目的ヲ全クシ得ルモノデアリマス、然ラバ砂防工事ト河川工事ト何レヲ先ニ施行スベキカト言ヘバ、第一ニ山ノ崩壊下溪流ノ荒廢ヲ防止スル砂防工事ヲ先ニ行ヒ、後ニ下流ノ河川工事ニ及ブベキモノデアルノデアリマス、此ノヤリ方ヲ誤ツタ實例ハ富山

縣常願寺川デアリマス、此ノ川ハ明治二十  
五年ニ多額ノ工費ヲ投ジテ下流河川ノ改修  
ヲナシタノデアリマスルガ、其ノ當時上流  
ノ砂防工事ニ手ヲ著ケザリシ爲ニ、流出スル  
土砂ニ依リ著シク河床ガ埋没シテ、現在再  
ビ改修工事ヲ施行中デアリマス  
諸君、今日コソハ我國ノ治水政策ヲ轉  
換スルノ時デアリマス、我が國從來ノ治水  
政策ヲ見ルニ、國民ハ專ラ河川工事ノ速成  
ト災害ノ復舊ヲ要望スルコトニ熱烈ニシテ、  
假令水源ヲ治ムル砂防工事ノ名ヲ知ルモ、  
其ノ多クハ山ニ樹木ヲ植付ケル工事位ニ簡  
單ニ解シテ、砂防工事ノ如何ニ大切ナルカ  
ヲ知ラズ、又當局ハ國民ノ聲ニ應ジテ河川  
工事ト災害復舊工事ニ主力ヲ注ギ砂防工事  
ニ十分ナル注意ヲ拂ハナカツタノデアリマ  
ス（拍手）是ハ丁度所謂樹齋カナラント欲ス  
ルモ風止マズデ、災害ノ禍根ヲ絶タズ、施  
工ノ順序ヲ誤ツタ現在ノ治水政策デハドウ  
シテ年々起ル所ノ災害ヲ防ギ、治水ノ完璧  
ヲ期スルト云フコトガ出來マセウカ、ソレ  
デアリマスカラ今後ハ現在ノ變則ニシテ彌  
縫的ナル治水政策ハ斷然破棄シ、治水ノ正  
道ニ復歸シ、砂防工事ヲ先ニ行フ所ノ治水  
政策ニ還元スベキデアリマス、幸カ不幸カ  
我が國民ノ一半ハ河川工事ノ竣工セル地域  
ニ、他ノ一半ハ河川ノ現狀ニ直面スル環境  
ニ生存シテ居ルノデアリマス、仍テ國家  
遠永ノ治水目的達成ノ爲ニハ、河川ハ現狀  
ヲ維持スル程度ニ止メ、水害原因ノ根本タ  
ル山ノ崩壞、溪流荒廢ノ跡ヲ絶ツニ至リマ  
スレバ、毎年平均水害ノ損失三億圓ニ達ス  
ル我ガ水害國ガ、初メテ國土安定シ、產業  
ノ基礎ヲ確立シ得ルノデアリマス  
尙ホ私ハ最後ニ重ネテ如何ニ砂防工事ノ

大切ナルカノ一例トシテ、明治十四年「オランダ」ヨリ備入レタル「ヨハ・ラ・レイケ」ト云フ技師ガ淀川改修工事費及ビ砂防工事費分配ノコトニ付キ、時ノ内務石井大書記官ニ提出シタ意見書ノコトヲ申上ダマス、之ニ依レバ、砂防工事費ハ改修工事費ノ四倍ヨリ下ルベカラズ、即チ河川工事ニ二萬圓ヲ支給スレバ、八萬圓ヲ以テ砂防工事費ニ充ツベシト言フノデアリマス、又以テ砂防工事ガ如何ニ大切ナルカト云フコトヲ知ルベキデアリマス

更ニ私ハ砂防、治水、利水國策ノ一元化ニ付テ申述ベマス、内務省所管ノ河川工事、砂防工事等ノ治水事業ト、農商省所管ノ治水、利水事業ハ、其ノ施工地域、工事ノ種類等ハ實ニ密接不可分ノ關係ヲ有スルガ故ニ、從來ノ如ク單ニ兩者間ノ連絡ヲ保ツガ如キ姑息ノ手段ヲ排シ之ヲ一省ニ統合シ、初メテ砂防、治水、利水萬全ノ機能ヲ發揮シ得ベキヲ以テ、政府ハ此ノ際速カニ是ガ實現ヲ圖ルヲ急務ト信ジマス、例セバ外局ヲ置キ、此處ニ統轄スルコトガ其ノ機能ヲ十分發揮スルニ都合ガ好クハナイカト思ハレルノデアリマス、私ハ成ルベク速カニ是ガ實現ヲ期待スル者デアリマス（拍手）

○議長（岡田忠彦君）採決致シマス、本案ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長（岡田忠彦君）御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ可決セラレマシタ（拍手）是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後三時二十四分散會